

新潟市小中学校PTA連合会と新潟市社会教育委員との懇談会 概要

新潟市小中学校PTA連合会と新潟市社会教育委員との懇談会	
開催日時	令和元年12月18日(水) 午後6時～午後7時
会場	クロスパルにいがた4階 403講座室
出席者	<p>【小中学校PTA連合会】 小見 直樹、長谷川 雅朗、長谷川 瑞、和氣 彰、南雲 貴広、永田 向太郎、渡邊 愛子、佐藤 茂充 計8名 *敬称略</p> <p>【社会教育委員】 伊比 宗宏、岡 昌子、小川 崇、角野 仁美、雲尾 周、笹川 博人、杉山 節子、田中 一昭、田中 宏和 計9名 *敬称略</p> <p>【事務局】 小中学校PTA連合会事務局長、地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、中央図書館長補佐、生涯学習センター所長、生涯学習センター所長補佐、生涯学習センター職員3名 計10名</p>
内容	<p>1 開会あいさつ(社会教育委員会議議長)</p> <p>2 自己紹介</p> <p>3 事例紹介 「PTAを卒業した後の活動継続の仕組みづくり」 (1)「PTA後援会やOB制度について」 【発表内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数年前からPTA会長がなかなか見つからない状態で、夜や土日の活動に参加できない時があり、代理がいればということでOB会の相談を始めた。現役の役員と同じ立場でボランティアとして携わってもいいと手を挙げた歴代PTA会長、副会長経験者を登録し、規約を作成、評議委員会・PTA総会で承認を得て、平成30年に活動を開始した。初年度OB会登録者は10名で、現在は20名ほどいる。 ・ 現役PTA会長、副会長、校長先生、教頭先生方等で構成する「運営委員会」にOB会長と副会長も属し、1年間のPTA活動の企画・運営をしている。 ・ 活動内容は会長・副会長の代理・代行として郊外活動への参加、コミュニティ協議会の会議、懇親会、市Pや区Pでの活動参加のほか、毎年替わるPTAの専門部長や学年委員長の相談サポートもしている。 ・ PTA会長、副会長は立場上、公平性も求められ、自分の悩みや愚痴を吐き出す場がないため、経験者であるOB役員が半年に1回程、懇親会を設けて話や悩みなど聞いている。 ・ OB会の任期は規約で原則として子どもが中学校を卒業するまでだが、その後も任意で参加して下さる方には喜んで協力いただいている。 ・ 昼間の作業や活動には仕事の都合で参加できず、夜間や土日なら協力できる保護者も多いが、教職員の多忙化解消のため夕方以降のPTA活動や土日のPTA行事の見直しなどが学校から要請され、PTAの役員不足、少数多忙化も問題になってきている。今後、長期的に活動を継続していくために積極的に声掛けをして仲間を増やす必要がある。 <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ協議会や地域教育コーディネーターとの連携で難しいポイントとはどの辺りか。 → 地域の方は善意で保護者も一緒に頑張ろうと声を上げてくださる。現役

内 容	<p>世代のPTAとしては難しいことや反対にできることなどもあり、連携している地域教育コーディネーターの互いを尊重した対応に感謝している。</p> <p>(2) 「PTA卒業後の地域活動への参加について」</p> <p>【発表内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PTA会長、副会長を務めると、コミュニティ協議会や育成協、地域の福祉ふれあいの会などの役職等に就き、自然と地域活動に携わることになる。 ・ コミュニティ協議会、育成協、民生委員、自治協議会、一つ一つの活動は素晴らしいが、活動自体の目的が被り、別々の動きになってしまっている。それぞれの活動をつなげて連携し、人と人がつながり情報もつながるような場所や仕組みをつくりたいと考えるようになった。 ・ PTA会長として活動する中で、地域コミュニティの中核にすることができ、地域の子どもたちを取り巻く環境に対する取り組みを手伝いたいという動機をもち、福祉事業として障がい者の就労支援の事業所を立ち上げた。事業所の運営時間外にレンタルスペースも行き、地域の大学生によるこども食堂を5回開催した。 ・ PTA活動は大きな誇りや自信になるとともに、友だちができたことが財産だ。PTA経験が一つの共通言語のようになり、同じ価値観や考え方を共有できると嬉しく思う。 <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を始めて半年経過し、良くなってきたことなどあればお聞きしたい。 <ul style="list-style-type: none"> →例えば見守りでは、子どもたちの見守りの活動をしている傍らで、高齢者の見守りに取り組んでいる組織がある。同じ見守りだが別々に動いているため、それぞれマンパワーが足りない。高齢者も子どもたちも見守る、と一緒にすることで、少ないパワーで効果的な活動ができるのではないか。同じ方向を向いている両者を理解する人間が間に入ることにより、活動自体をつなげていくことができるのではないかと思う。 <p>4 意見交換</p> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の働き方改革を考えると、先生にも子どもがいて、同じ子育て世代の仲間と捉えていただきたい。PTAだけでできる事業は、学校開放でいつでもできる。教職員も自分の家庭や地域にかけられる時間ももてるよう、理解いただけるとありがたい。 <ul style="list-style-type: none"> →PTAも会長の居住地の自治会館を借りて土日に保護者が集まれる場合、学校以外でPTA活動ができないかと動いている。皆さん、保護者、子育て世代でもあり、理解し合っていきたい。 →先生の働き方改革がすなわちPTAの働き方改革であり、先生が活動しやすいPTA活動は、保護者も活動しやすいPTA活動ではないかと思う。 ・ PTA役員は子育てを通じて学びを実感する中で、地域活動に自然と触れ合う機会に恵まれるが、一般のPTA会員は地域とかかわるきっかけがあまりない。役員を務めた人間が地域のありがたさ、地域との連携の大切さをどのように広めていくかが課題であると感じている。PTA卒業後は地域に恩返しをしたいが、意気込みをどのような形で反映していくとスムーズに取り組んでいけるか。 <ul style="list-style-type: none"> →市としてはコミュニティ協議会の役員になり、コミュニティ協議会がその
-----	--

	<p>地域を活性化していくことを望んでいると思うが、社会教育的には、近くの公民館に行き、いろいろな団体の中で地域にかかわるところの中心になってもらうのが一番いいのではないか。社会教育委員会議が研究している中では、それぞれの団体が高齢化しており、そこに多世代の（世代を越えるような）人たちが入ることもいいのではないかと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数十年前のPTAでは、最初の勉強会でPTAの役割は学び合うこととされ、いろいろな経験や勉強をしてきた。今は保護者にいろいろなことを投げかけても反応がなく、区の予算で小学校新1年生の家庭向けに冊子から抜粋したリーフレットを配付しても2割か3割しか読まないのは何故か。 →市PTA連合会でも区PTA連合会でもいろいろな企画、講演会をしているが、参加が少ない。保護者のアンケートでは、興味がない、面倒くさい、ユーチューブを見れば聴きたい講演は好きな時間に見られるという意見がある。実際に聴くことで感動したり、いろいろな人の立場が分かったりするため、保護者にはめげずに声かけを続けていく。本日初めて知った、学び合うことという本来のPTAの目的を持ち帰り、他の役員にも伝えたい。 ・ 役員を務めた中学校PTAの規約には、子どもの健全育成のサポートに加え、会員の親睦を深め、会員の資質を高める、とあり、PTA会員が学ぶことを前提として、子ども向けの講演会に保護者も全員参加して後ろで聞くということも含めている。PTAの社会教育団体としての本来の姿というものをいろいろな活動で出していくといいのではないか。 ・ PTAは正式に社会教育関係団体という位置付けもあり、市で5万9,000人程の児童・生徒がいる中で一番大きな母体であり、毎年6,000人がOBになっている。PTA活動を通じて共通の学びの場を得てきた同士たちが卒業してからも、さらに自分自身を高める意味で違った境遇の中に入り学び合い、それを社会に循環させていくという仕組みが求められている。大きな課題であり、活用の場としての受け皿があればありがたい。 <p>5 閉会あいさつ（社会教育委員会議副議長）</p>
懇談会資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校PTA連合会と社会教育委員との懇談会 次第 ・ 出席者名簿